



自然学校講座、好評にて終了！

大学生や教員、その他自然学校に関心のある者を対象に、8月27日（火）から29日（木）の2泊3日で、指導者入門編の自然学校講座を実施しました。この講座は、「自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動等の実習を通して、指導者としての資質能力を高める」ことを目的としています。

今年度は、今までも受講のあった高等学校10年経験者研修とは別に、新たに高等学校初任者研修を受け入れたので、昨年度の結果（4.67 (93.3%)）と純粋に比較できませんが、事後アンケートからの評価（満足度）は、下記のとおりです。（回収率 91.7% 33名/36名）

評価	5	4.5	4	3.5	3	2	1
人数	18(54.5%)	2(6.1%)	10(30.3%)	3(9.1%)	0	0	0

※ 4.53 (90.6%) $\{(5 \times 18) + (4.5 \times 2) + (4 \times 10) + (3.5 \times 3)\} \div (5 \times 33) \times 5$



開講式後すぐに、本校の山田校長による「自然の話・自然観察」で、実習を交えながら研修を深めました。指導課だよりNO, 6で紹介した本校正門よりやや下辺りから、工作室に向かう三叉路までの雑木林内の自然観察フィールド辺りで、木や植物、草花の観察をしながら、それぞれの特徴の詳しい説明を聴きました。また、自然学校での入校式でよく話題になる「笛」を作りました。それらの体験から、「植物一つ、一人一人にしても、一つ一つ、一人一人、特徴、価値観が異なっており、そういった環境の中で、私たちは自然と共生しているんだな」ということを体験を通して学べた」と感想を書いた受講者もいました。また、実際に自然を見て、ふれて、体験することが、経験として身に残り、『体験しながら聞く』ことが、一番記憶に残るということを改めて実感されました。



午後からは、関西学院大学の甲斐教授による「自然学校・野外活動におけるリスクマネジメント」の講義と、「ピザの斜塔」「風に吹かれて」などのイニシアティブゲームを通してのリスクを考える演習を行いました。

リスクマネジメントとは、事故を未然に防ぎ、被害を最小限にする取組であり、そのためにも、危険因子を発見、把握することが必要です。参加者の感想には、「リスクの対処方法を学んだ。1つの事柄に対して多くの因子が存在し、それをいかに考え、いかに減らしていくかを考える必要があると感じた」とか、「午後の講義・演習のリスクマネジメントは、実例がたくさんあり、大変勉強になりました。今後、部活動や修学旅行で役立てたいと思います」などがあり、学校生活で即活用できる内容でした。



2日目は、本講座のメインとして位置づけている「立木（ひのき・竹）の伐採体験とそれらを用いた

クラフト」の実習を行いました。



木の伐採体験は、本校がこの4月より新しく取り入れたアクティビティであり、ロープやハーネス等を使い、倒す方向等を計算するなど安全面に配慮しました。木の倒れる音やその迫力が、印象的だった参加者も多かったようです。また、生木に触れ、切り倒した木を全員で運ぶことから木の重みを体感し、そして、加工することで様々なにおいや感覚を経験することができました。特に、ひのきの樹皮を素手で剥いだ時に、生涯忘れられないほどの感動を覚えたようでした。

その後のクラフト活動では、型にはまったものを作るのではなく、受講者の発想に基づいて切り出したばかりの素材に、各班での設計図づくりやグループワーク等を取り入れ、自由な造形にする活動を取り入れました。これから初めて自然学校のリーダーをする大学生や小学生のことをよく知っている指導補助員の経験豊かなリーダー、高等学校の初任者、そして、農業高等学校等の10年経験者など、様々な考え方を持つ方々の参加であったので、アイデア豊かで独創的な作品に仕上がりました。この講座で初めて出会った人ばかりですが、共同作業を行う中でチームワークが生まれ、クラフトにおけるグループワークや製作作業を協力的な雰囲気楽しく行い、交流が深まりました。

自然学校でのクラフトは、ひのきホルダー等、各自が持ち帰ることから一人で作品を仕上げる人が多いです。当然、子どもたちの話し合いや葛藤場面がないし、共同作業での楽しさを味わうことが出来ません。本校を1学期利用した小野市立来住小学校の中村校長先生は、『・・・「葛藤場を設定し、それを問題解決させる」まさしく「対立から協働へ」の場面設定があれば、子ども自身が自分の役割や価値に自ら気づいていけるものと考えています。ひとつの目標にむけて、自分の思いと対峙し、それを友だちといっしょに乗り越える体験は、これから生きていく上で大きな力になるでしょう。・・・』と、考えておられます。私は、この考え方に共感しています。子どもたちが作った作品をどのように持ち帰るのかという問題はありますが、集団によるクラフトづくりに、それも木（竹）の伐採からの関連した活動に、取り組んでみてはどうでしょうか。



最終日は、朝・昼とも野外炊事を行い、指導上での基礎・基本や危険を察知する第六感について学びました。ケガが多い野外炊事で、子どもたちへの言葉かけの大切さも理解してもらいました。

編集後記

昨年は、この講座を受け2学期最初の自然学校のリーダーとして、大いにその学校で活躍した人がいました。また、一昨年までは、小学校の先生方も参加されていました。2学期前の忙しい時かもしれませんが、来年度の参加者が増えることと、自然学校講座での活動を2学期からの自然学校でも取り入れて頂くことを期待します。

(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)